

生活指導についての 一 考察

石川 春代

幼稚園でも、家庭でも環境を急速に理想的な環境に改めることは出来ない。しかも幼児達はこれらの環境に応じて行動をとるようになるので施設の不備を補うためには、適切な指導が工夫されなければならない。この点から、生活指導を幼稚園の指導内容の一項目である「遊びや仕事のきまりを守る」をとりあげて考察を試みた。

一、幼稚園のきまりは誰が作っているか。

幼稚園指導要領には、いろいろ

ろなきまりが羅列してあるが、それを、どのように守るかは教師がきめていることではなからうか。教師は一方的にきまりを強制していることはないであろうか。

○ 幼児にとって正しいきまりであるか否かは、幼児の実態から反省されなければならない。

二、五才児ほどの程度きまりが守れるか

○ 昨年行ったピアゼの道徳判断テストによって、幼児は、道徳的な判断では結果的な判断が多くなる行動と意識とがまだともなわれない。即ち原因、結果の思考はできないということがたしかめられたと思う。これはまた、きまりについていもいえると思う。

三、どんなきまりがあるか

教師のきまりは質問により、家庭のきまりは質問紙法により、子どものきまりは幼稚園、家庭とも話し合いにより調査した。

● 子どもが受けとめているきまりには、個人的に教師から注意をうけたことを、きまりと感じていて、それは、それぞれのできごと

によって、瞬間的にそのきまりを変えているようにも思えた。

● また集団生活することから起る問題解決や人と人との交渉によって起ってくる問題をきまりに考えている。即ち「人をたたかないこと」「人にいたずらしないこと」「人のじまをしらないこと」など。

このことから、幼児が何を訴えているか、教師が感じとる必要がある、幼児同志で解決できる方法を指導してやらなければならない。

どのように変っているかを次に考えてみた。

親の考えているきまりは、片付けが最も多いようで、親の考え方について、適当な方法を考え、幼児に適当な仕事であるか否かを考えることなしに片付けが取りあげられているようである。

● 幼児の受けとめているきまりについては、母親の注意がよく反映されているようである。母親の注意が、子どものきまりとして受けとめられているので、母親の感情

① 幼稚園におけるきまり

多い順	教師が考えているきまり	多い順	幼児が受けとめているきまり (幼児の話し合いにより)
1	片付けの合図で、みんなでは片付けない	1	遊んだ後、片付ける
2	廊下を走らない	2	けんかをしない
3	靴を下駄箱に入れる	3	砂や石をなげない
4	みまぐししないで、きまった道を通る	4	人にいたずらしない
5	幼稚園の門から出ない	5	水道の水をたくさんださない
6	大声でしゃべらないこと	6	机にのぼらない
7	机にのぼらない	7	扉にのぼらない
8	カバンや帽子をきまった所にかける	8	ブランコや遊具はかわりばんこにする
9	当番は机をふいて食事の用意をする	9	門から出ない
10	ブランコは、順番にのる	10	粘土積木椅子などなげない
11	信号をみて、道路を往復する	11	紙などちりさない
12	便所のはきものを揃える	12	カバンや帽子を自分の所にかける
13	手洗いや、うがいをする	13	靴は下駄箱に入れて人の靴をかくししない
14	用便は、便所でする	14	廊下を走らない
15	草や木、花を折ったりちぎったりしない	15	人にいじわるしない
		16	絵本をやぶらない
		17	砂を外にもち出さない
		18	先生の云う事を守る

きまりの具体例	教師の指導	幼児の反応	解決法	
家庭の協力によって	基本的な習慣などは主な要因である(省略)			
環境に順応させる(施設などの改修工夫により) 習慣形成によって徹底させるきまり	1 便所のきまりををる	<ul style="list-style-type: none"> ・四月初「便所のスリッパを揃えてぬきましよう」とことばで指示した ・五月中旬に便所の戸の前にスリッパの絵をかき、だまっていた ・男児は下駄をのけて、せともの動かないものにした 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は時々ならべるが、すぐに見だれている ・幼児は一所懸命にぞうりをならべている ・いつもぞうりをならべるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を工夫改善することによって幼児はそれに順応する事で、きまりがスムーズに行なわれた ・教師の具体的な指導が必要である
	2 砂場の砂を持ち出さない	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年までは砂場の檻がなかった ・五月中旬に砂場の檻をつかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は砂をもち出して遊んでいた ・幼児はころんで擦過傷が多かった ・砂場の砂をもち出す子どもは殆んどなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂場の檻を作ったので落付いた環境構成が出来、子どもはその中で、落付いて遊んでいた
	3 廊下を走らない	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの観察で ・遊き室は走ってもよいときめる ・他の室は走らないようにときめる ・「人に迷惑をかけない」という集団生活をするうえに必要な刺激は与えなければならぬ ・室の中で話しをきいているとき外を走って他の幼児達がとおると「ついでに年少児でも教師が前に立って「ついでに年少児でも教師が前に立って行動すれば」と指示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は約束してごっこ遊びをし走って遊んでいる ・幼児は実行する事は困難であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような事から教師も共に幼児と実行する事が大切である ・他の子どもを批判する事で意識を高めながら
	4 机の上ののぼらない	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が机の上ののぼった時はすぐに机の上をふくように指示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児はすぐに実行出来る ・また幼児同志でも解決出来るようである 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自身の体でつくのうことで、きまりを徹底させる
	5 はきものを下駄箱に入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の調査によると ・室内の集りと園庭の集りをする ・忘れた幼児の靴を教師がなおすようにした 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ子どもが忘れている ・室内の集りの時忘れていた子どもが多い ・帰る時に幼児にさがさせる ・1週間位で大体忘れる幼児がなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的な指導が必要である ・教師が忘れた幼児の靴をなおすようにするのは、幼児にただ注意するよりも効果があった
子どものつくるきまり	6 遊びについて	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの観察で ・年長児 ・年少児 	<ul style="list-style-type: none"> 年長 <ul style="list-style-type: none"> ・9月16日おまつりごっこ ① 材料の工夫 ② 場所をかえる ③ 馬をつくるなど ・話し合いによって遊びが発展し、ルールが作られている 年少 <ul style="list-style-type: none"> ・ままごとから、どろぼうごっこなど、瞬間的に変っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びについて、幼児が自由に作るきまりは、私達の指導法にとり入れて行かねばならない ・幼児同志の公認は、遊びの中で重視されている
	7 幼児自身のけんかの仲裁	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びのけんかについて観察すると 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児同志で、力の強い子に訴えている ・「口で云うといいじゃないか」と云って仲裁している 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の助言指導が、幼児同志のけんかの仲裁になっている

五、幼稚園のきまりについての指導の実際(上表参照)

六、きまりについての教師の反省

- ・幼児は行動的な思考をし、動きながら考えるのであるから、教師は幼児と一しょに考える態度が必要であり、教師は具体的な問題に疑問をもち、幼児の生活の中から、問題を見出さねばならない。
- ・幼児自身が問題をみきわめ、自主的な行動の芽生えが育つように、そして自己中心的態度から成長させて、のぞましい社会的態度を身につけるよう、助力しなればならない。
- ・指導の実際例を出してみたが、実践してみて、その環境のみに順応させて、習慣化させようとした私の試みは、失敗であった。やはり同じ環境でも、幼児が新しい感じ方をするような指導が常に工夫されなければならないことを痛感した。

(熊本市立熊本幼稚園)

* * *